



安曇野屋敷林 サポーター通信

創刊号

発行日/2011年11月3日

編集/屋敷林と歴史的まちなみプロジェクト

連絡先/安曇野ブランド推進室 ☎0263-82-3131

<http://azumino.cocolog-nifty.com/keikan/>

創刊号 発刊にあたり リーダー場々洋介

紅葉の安曇野が美しい今日 このごろ皆様にはご健勝のこととお喜び申し上げます。

平成23年10月9日の安曇野屋敷林フォーラム2011の開催と同日に 安曇野屋敷林サポーター制度を立ち上げ現在約60名ほどのサポーターが入会されました。

今回創刊号を発刊するに当たりごあいさつ申し上げます。このサポーター通信は皆様に 屋敷林に関する情報提供を目的にしております。

発刊日はイベントやご報告の内容により不定期となりますが年4回ほどを目標にしております。今後は過日行われましたフォーラムや奥州でのフォーラムの報告を計画しております。

発行は屋敷林とまちなみプロジェクトで行いますが、皆様からの投稿も掲載いたしますので、よろしく御願います。

平成22年度 地域発元気づくり支援金 優良事例 松本地方事務所長表彰を受ける



平成23年10月31日 松本地方事務所にて平成22年度の地域発元気づくり支援金の6団体が表彰を受けました。当プロジェクトによる「安曇野の屋敷林」の冊子とマップ版のパンフレットが、対象となりました。

この冊子は県の支援金を約200万円いただき 2年の歳月と18回の現地取材と50回に及ぶ会議の結晶です。

審査委員長 白戸 洋 先生のコメント

薩摩の大提灯 信州の小提灯ということわざがあります。信州の人はばらばらで仲良くやらないといわれています。ネットワーク化(共同で行う)が必要だと思います。また長い歴史の活動が必要だと思います。つまり長い積み重ねが大事だと思います。

今回は地域の資源を生かした事業が多く、地元の方のアイデアが大切です。しかし長野県は資源が多いので奇をてらわれないことが大事だと思います。

経済もキーワードです。近年 地域は住む場所であり稼ぐ場所ではなくなった。しかし経済をどう取り込むかが今後大切です。住んでいてよくなければ 訪れる人も魅力を感じない。観光とは生活の中にあるものをきちんと伝えること。生活の中に幸せがあるのです。



6団体の記念写真 中央 原松本地方事務所長

●知事表彰

重伝建保存地区漆工町のある木曾平沢に漆塗りポストの設置事業(塩尻市)

●他の地方事務所長表彰

地域の輪を育む手づくり公園事業(塩尻市)

家族の愛と木のぬくもりを赤ちゃんへ「ぬく森事業」(朝日村)
みずのさんぽ(松本市)

本気な農園探検隊ガイド事業(生坂村)

文責:場々